

ミダックホールディングス

(TSE Prime: 6564)

2026年3月期 本決算 分析レポート

■ 売上高 **118.4億円**(+8.6%) ■ 営業利益 **47.2億円**(+4.2%) とともに過去最高

WEB決算説明会 2026年5月18日開催

Ex

エグゼクティブ・サマリー

2026年3月期は売上・営業利益ともに過去最高を更新、27/3期は二桁成長見通し

売上高

11,844

+8.6% YoY (過去最高)

営業利益

4,723

+4.2% YoY (過去最高)

経常利益

4,649

+4.5% YoY

当期純利益

2,888

+0.9% YoY

(単位:百万円)

◆ 投資ハイライト

- 廃棄物処分事業が好調、最終処分場の埋立需要旺盛で受託量拡大
- 営業利益率39.9%は同業他社を圧倒(ダイセキ22%、業界平均10%台)
- 大平興産(25/4)・エノケン工業(26/4)のM&Aで東日本展開を加速
- 都田テクノプラント(新規水処理施設)が26年6月稼働、27/3期寄与
- 27/3予想:売上+13.9%/営業利益+16.2%/当期純利益+15.6%加速
- 増配継続:14円→18円→20円(予)、配当性向16-17%で余地あり

◆ 投資判断・主要リスク

【投資判断】 ややポジティブ

- PER(予)18.0倍 = 業種平均並みもROE18%は高水準

【リスク】

- ・ 最終処分場の許認可リスク(東日本3件計画中)
- ・ 大型設備投資継続(26/3期105億→27/3期79億予)

企業概要：産業廃棄物処理の総合企業

東証プライム / 業種:サービス業 / 本社:静岡県浜松市

■ 会社プロフィール

証券コード 6564

市場区分 東証プライム / 名証プレミア

業種 サービス業

設立 1952年7月 (前身:三田商事)

代表者 代表取締役社長 加藤 恵子

本社 静岡県浜松市中央区

連結子会社 ミダック、ミダックライナー、三晃、ミダックこなん、フレンドサニタリー、遠州砕石、大平興産、エノケン工業 他

発行済株式数 27,773,500株

時価総額 約597億円 (26/5月時点)

■ 事業内容 (一貫処理体制が強み)

排出
事業者

収集運搬

17%

中間処理

焼却・破碎・水処理

最終処分

管理型/安定型

廃棄物処分事業 82%

◆ 同業の多くは収集運搬のみ・中間処理のみだが、同社は収集運搬→中間処理→最終処分を一貫提供する数少ない企業の一つ。

◆ 自社最終処分場の保有(=高い参入障壁)が他社対比の高収益性(営業利益率約40%)の源泉となっている。

◆ ESG/サステナビリティ:循環型社会の確立を経営理念に掲げ、廃棄物の適正処理を通じた社会課題解決と高収益性の両立を実現している。

2 沿革：M&A戦略で事業エリアを段階的に拡大

1985年最終処分場運営開始 → 上場 → 持株会社化 → 関東展開

年月	主な出来事	戦略的意義
1952年	創業（三田商事）	事業基盤の構築
1985年	奥山の杜クリーンセンター運営開始	中核資産＝管理型最終処分場を確立
2017-19年	名証・東証へ上場、東証一部指定	資本市場アクセスの確保
2021年	ミダックこなん子会社化	関西エリアへの足場確保
2022年	持株会社化 / プライム移行	M&A機動力強化 + 市場区分の維持
2023年	遠州砕石・フレンドサニタリー子会社化	残土処分・一般廃棄物への領域拡大
2025年4月	大平興産(千葉)子会社化	関東エリアでの管理型最終処分場確保
2026年4月	エノケン工業(静岡牧之原)子会社化 + 都田テクノプラント開設	東日本展開加速 + 水処理能力5倍化

◆ オーガニックグロース（奥山の杜CC）＋ 戦略的M&A の両輪で売上高は5年で約2倍に。22/3期 64億円 → 26/3期 118億円。

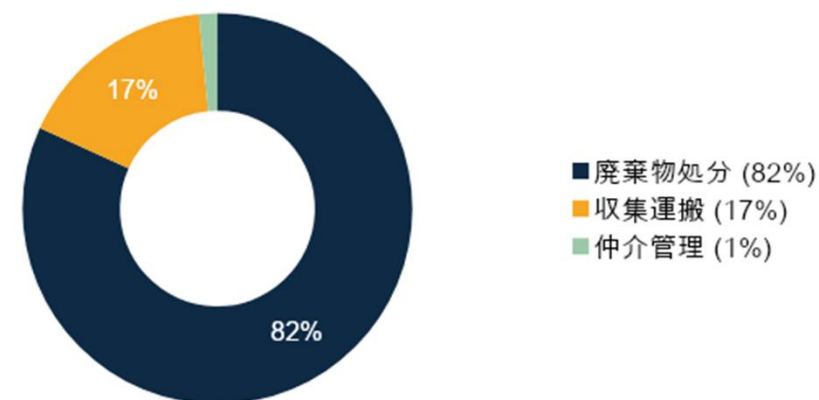
グループ構造：主営業エリア＝静岡を中心に東西へ拡大

M&Aによる地域別処理ネットワークの構築

■ 主要拠点

奥山の杜クリーンセンター	管理型最終処分場	静岡県浜松市（中核資産）
遠州クリーンセンター	管理型最終処分場	静岡県
浜名湖クリーンセンター	安定型最終処分場	静岡県
大塚山クリーンセンター	管理型最終処分場	静岡県（旧ミダックこなん）
第二処分場	安定型最終処分場	静岡県
大平興産 千葉最終処分場	管理型最終処分場	千葉県（2025/4 M&A）
エノケン工業 牧之原処分場	安定型最終処分場	静岡県牧之原市（2026/4 M&A）
富士宮事業所	焼却施設	静岡県富士宮市
都田テクノプラント	中間処理(水処理)	2026/6 稼働予定（処理能力5倍）
関事業所・春日井事業所	水処理・コンクリ固化	中部エリア
フレンドサニタリー	収集運搬・一般廃棄物	静岡県

■ セグメント別売上構成（2026年3月期）

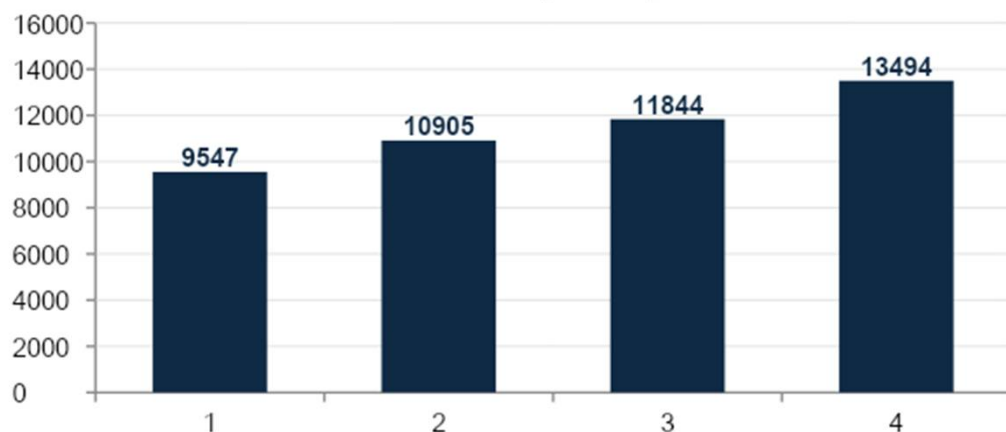


- ・ **廃棄物処分**: 最終処分場+中間処理。利益率53%超
- ・ **収集運搬**: 産廃・一般廃棄物の運搬・清掃
- ・ **仲介管理**: 自社処理困難案件の協力会社紹介

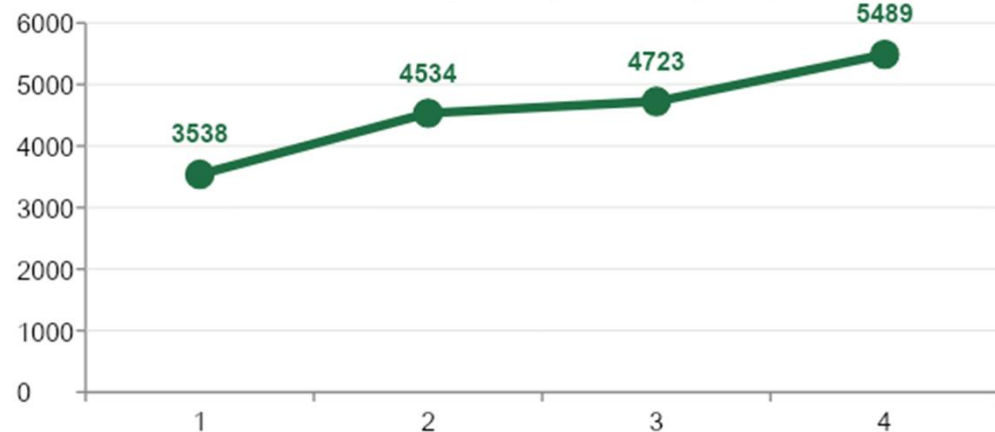
連結業績：26/3期会社計画並み着地、27/3期13.9%増収16.2%営利増予想

売上・営業利益ともに過去最高 / 2027/3期も二桁成長予想

売上高推移 (百万円)



営業利益推移 (百万円) / 利益率(右軸)

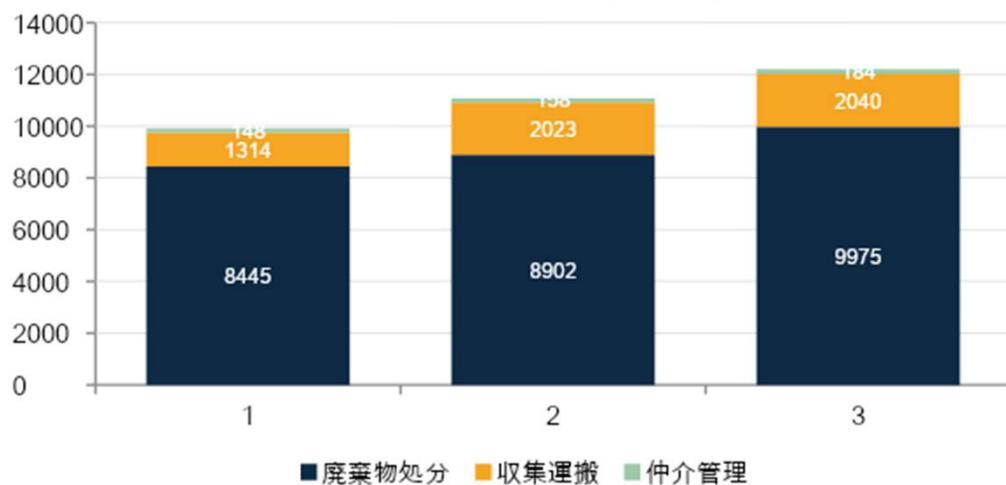


(百万円)	FY25/3 実績	FY26/3 実績	前期比	FY27/3 予想	前期比
売上高	10,905	11,844	+8.6%	13,494	+13.9%
営業利益	4,534	4,723	+4.2%	5,489	+16.2%
営業利益率	41.6%	39.9%	▲1.7pt	40.7%	+0.8pt
経常利益	4,450	4,649	+4.5%	5,268	+13.3%
当期純利益	2,862	2,888	+0.9%	3,340	+15.6%
EPS (円)	103.5	104.4	+0.9%	120.7	+15.6%
1株配当 (円)	14.0	18.0	+4.0	20.0(予)	+2.0

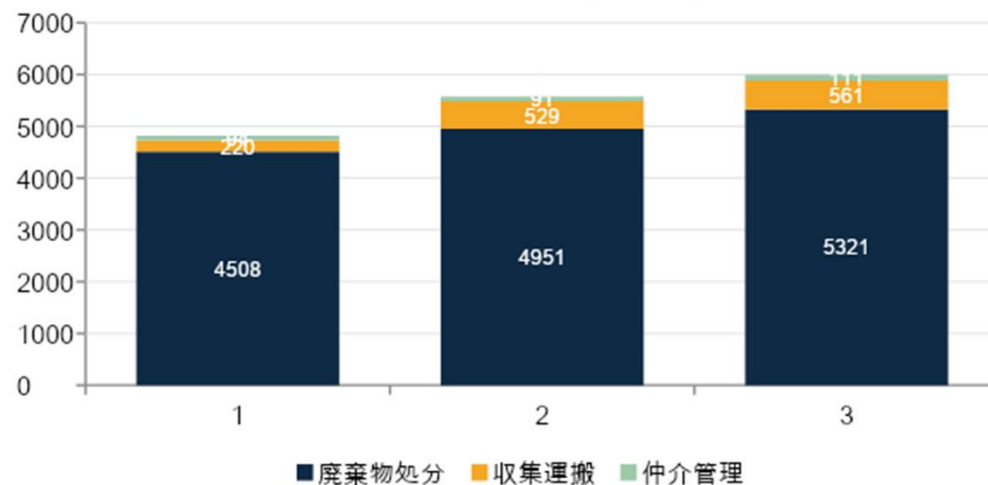
セグメント別業績：廃棄物処分が牽引、収集運搬は前期並み

(注:数値はセグメント間内部取引を含む)

セグメント別売上高 (百万円)



セグメント別利益 (百万円)



廃棄物処分事業 (82%)

売上:9,975 (+12.0%)

利益:5,321 (+7.5%)

- 最終処分場の旺盛な埋立需要が継続
- 大平興産の連結加算 (2Qから連結)
- 大平興産は搬入制限で増益幅縮小

収集運搬事業 (17%)

売上:2,040 (+0.8%)

利益:561 (+6.1%)

- 価格転嫁で前期並みの売上確保
- ミダックライナー:新規飲食店開拓奏功
- フレンドサニタリーのスポット反動減

仲介管理事業 (1%)

売上:184 (+14.2%)

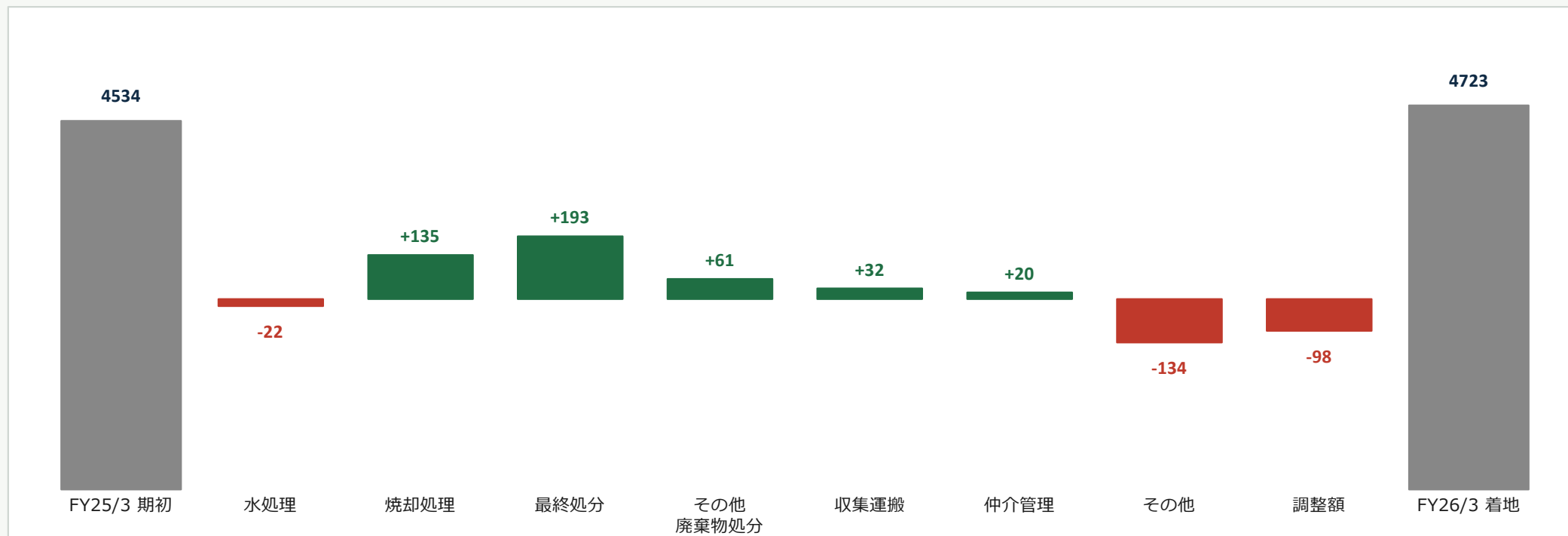
利益:111 (+22.4%)

- 大口案件獲得で協力会社仲介好調
- 利益率は60.3%と最も高い
- 構成比は小さいがアセットライト事業

6

営業利益増減分析：最終処分・焼却が増益貢献、その他事業が減益要因

FY25/3期 4,534百万円 → FY26/3期 4,723百万円 (+189)



◆ プラス要因

最終処分(+193) > 焼却処理(+135) > その他廃棄物処分(+61) > 収集運搬(+32) > 仲介管理(+20)。最終処分の埋立需要旺盛、焼却は定期修繕の見直しで増益。

◆ マイナス要因

その他(▲134) > 調整額(▲98) > 水処理(▲22)。その他は遠州砕石の残土処分事業の反動減。大平興産は搬入制限で増益寄与限定的。27/3期は制限解除で本格寄与へ。

オーガニックグロースの実力：M&A効果を除いても高成長維持

第1次中期経営計画 (FY27/3最終年度) の経常利益50億円目標は視野に入る

(百万円)	FY22/3	FY23/3	FY24/3	FY25/3	FY26/3 オーガ	FY27/3 中計
売上高	6,381	7,771	8,959	9,421	10,433	10,000
前期比	-	+21.8%	+15.3%	+5.2%	+10.7%	-
営業利益	2,264	2,755	3,581	4,013	4,727	-
営業利益率	35.5%	35.5%	40.0%	42.6%	45.3%	-
経常利益	2,188	2,692	3,414	3,915	4,568	5,000
経常利益率	34.3%	34.6%	38.1%	41.6%	43.8%	50.0%

◆ オーガニックでも中計達成見込み

FY26/3 オーガニック実績:

売上 104.3億円 (+10.7% YoY)

経常利益 45.7億円 (経常利益率 43.8%)

中計最終年度 FY27/3 目標:

売上100億円・経常50億円・経常利益率50%

→ 売上は既に達成、経常利益率の到達は射程

◆ 10年ビジョン Challenge 80th (FY32/3)

業界屈指の総合廃棄物処理企業への進化

▼ FY32/3 チャレンジ目標 (M&A込み)

・売上高 **400億円** (FY26/3 比 3.4倍)

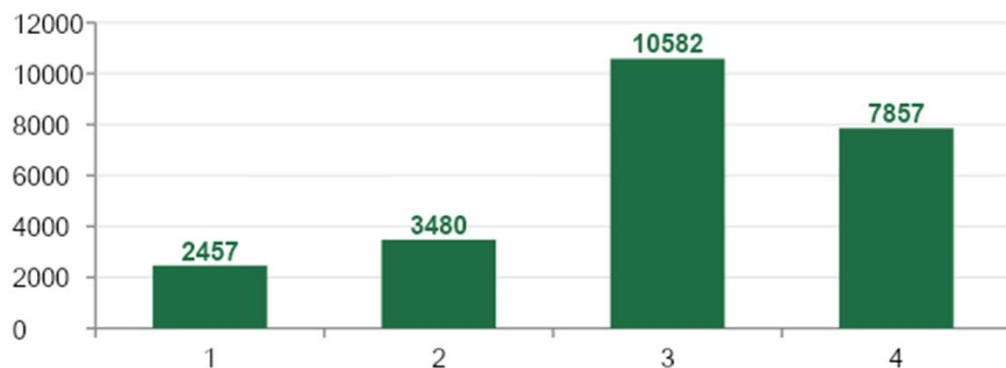
・経常利益 **120億円** (FY26/3 比 2.6倍)

→ 次の中計でM&A拡大と東日本展開加速

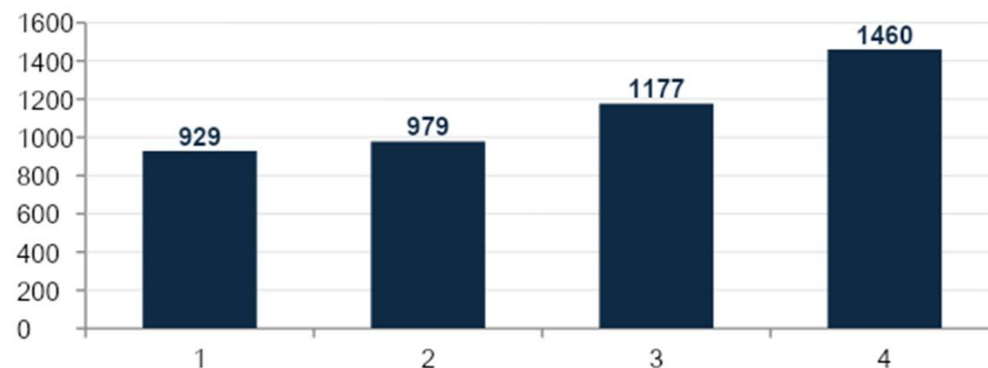
設備投資とキャッシュフロー：成長投資フェーズに本格突入

FY26/3 設備投資 105.8億円 (前期比3倍) / 大型投資が今後の収益基盤を構築

設備投資推移 (百万円)



減価償却費+のれん償却 (百万円)



◆ 投資の中身 (FY26/3 設備投資 105.8億円)

- 新規廃棄物処理施設の開発投資
- 都田テクノプラント (新規水処理施設、5倍能力)
- 既存最終処分場への設備投資
- 大平興産連結子会社化 (M&A支出 2.1億円)

→ FY27/3も78.6億円の大型投資継続予定

→ FY27/3以降は減価償却費が顕著に増加(+24%)することは要注意

◆ キャッシュフロー (FY26/3)

- 営業CF: +3,261百万円 (法人税支払▲14.6億円)
- 投資CF: ▲8,040百万円 (有形固定資産取得▲78.4億)
- 財務CF: +3,334百万円 (長期借入+36億)

2027年3月期 業績予想：会社計画に対しM&A効果から上振れ期待

売上高+13.9%・営業利益+16.2% → 利益率改善+M&A効果の本格寄与

(百万円)	FY26/3 実績	FY27/3 予想	構成比	前期比	妥当性評価
売上高	11,844	13,494	100.0%	+13.9%	達成可能性高
売上原価	4,444	5,362	39.7%	+20.6%	M&A・新規施設で増
売上総利益	7,400	8,132	60.3%	+9.9%	ミックス変化
販管費	2,676	2,643	19.6%	-1.3%	効率化進む
営業利益	4,723	5,489	40.7%	+16.2%	保守的~妥当
経常利益	4,649	5,268	39.0%	+13.3%	金利負担増を加味
当期純利益	2,888	3,340	24.8%	+15.6%	保守的~妥当

◆ 業績予想の妥当性検証

① **売上+13.9%の前提**: 大平興産の通期連結 (前期は2Qから連結) + 都田テクノプラント (26/6稼働) + エノケン工業の連結 (26/4取得) + オーガニック +5~10%。要素分解として妥当な水準。

② **営業利益率40.7%への回復**: 大平興産の搬入制限解除で本格寄与開始、都田テクノプラント稼働で水処理能力増強。一方で減価償却・のれん償却が増加 (+24%) するため、25/3期の41.6%まで戻すのは難しいがレンジは妥当。

③ **当期純利益+15.6%**: 経常利益+13.3%に対し、税率改善(のれん償却の影響緩和)を反映。

結論: 27/3期計画は**達成可能性が高く、上振れの可能性**

新規水処理施設「都田テクノプラント」

既存施設の約5倍の処理能力 / 2026年6月稼働 → 27/3期業績寄与

項目	内容
施設名	都田テクノプラント
所在地	静岡県浜松市浜名区新都田一丁目104番10号
施設種類	中間処理施設 (水処理)
処理能力	既存水処理施設の約5倍
立地優位性	高速道路から近く、広範囲からの受入が可能
許可取得	2026年3月13日 産業廃棄物処分業許可証
稼働予定	2026年6月 (排水処理施設の追加防水工事完了後)
設備投資	FY26/3期の主要設備投資の一つとして実施

◆ 業績インパクト試算

・ 処理能力が5倍化することで、これまで断っていた受託案件にも対応可能 → 受託量増 + 単価高い案件にもアプローチ可能

・ 水処理単独売上は非開示だが、廃棄物処分セグメント (26/3 期、売上99.7億円・利益53.2億円) の中で水処理が今後の利益成長ドライバー化

・ 27/3期は稼働開始から約9-10か月間の寄与、28/3期以降の通期寄与で本格成長へ

支援型M&A：直近2件で東日本展開を加速

大平興産(千葉) / エノケン工業(静岡牧之原) → 最終処分場ネットワーク拡大

大平興産株式会社 (千葉県)

M&A時期	2025年4月
所在地	千葉県内
事業内容	管理型最終処分場の運営
連結反映	FY26/3期 第2四半期から (P/L連結)
業績影響(26/3)	搬入制限により増益寄与は限定的
27/3期見通し	搬入制限解除で本格寄与開始
戦略的意義	関東エリアでの最終処分場確保
長期視野	最終処分場の拡張も視野

有限会社エノケン工業 (静岡県)

M&A時期	2026年4月
所在地	静岡県牧之原市
事業内容	安定型最終処分場の運営
連結反映	FY27/3期から本格寄与
業績影響(26/3)	FY26/3には未反映
27/3期見通し	通期で売上・利益寄与開始
戦略的意義	本社近隣で運営効率化シナジー
長期視野	中長期的に最終処分場の新規設置も視野

12 中長期成長戦略：管理型最終処分場の許可取得計画

全国3件 (栃木・福島・島根) で次の成長ステージへ

栃木県那須塩原市 最終処分場

種別 管理型

埋立容量 約230万 m^3

埋立期間 約20年

ステータス

開発推進中(許可取得計画)

福島県郡山市 最終処分場

種別 管理型

埋立容量 約161万 m^3

埋立期間 約17年

ステータス

開発推進中(許可取得計画)

島根県邑智郡美郷町 最終処分場

種別 管理型

埋立容量 約400万 m^3

埋立期間 約20年

ステータス

開発推進中(許可取得計画)

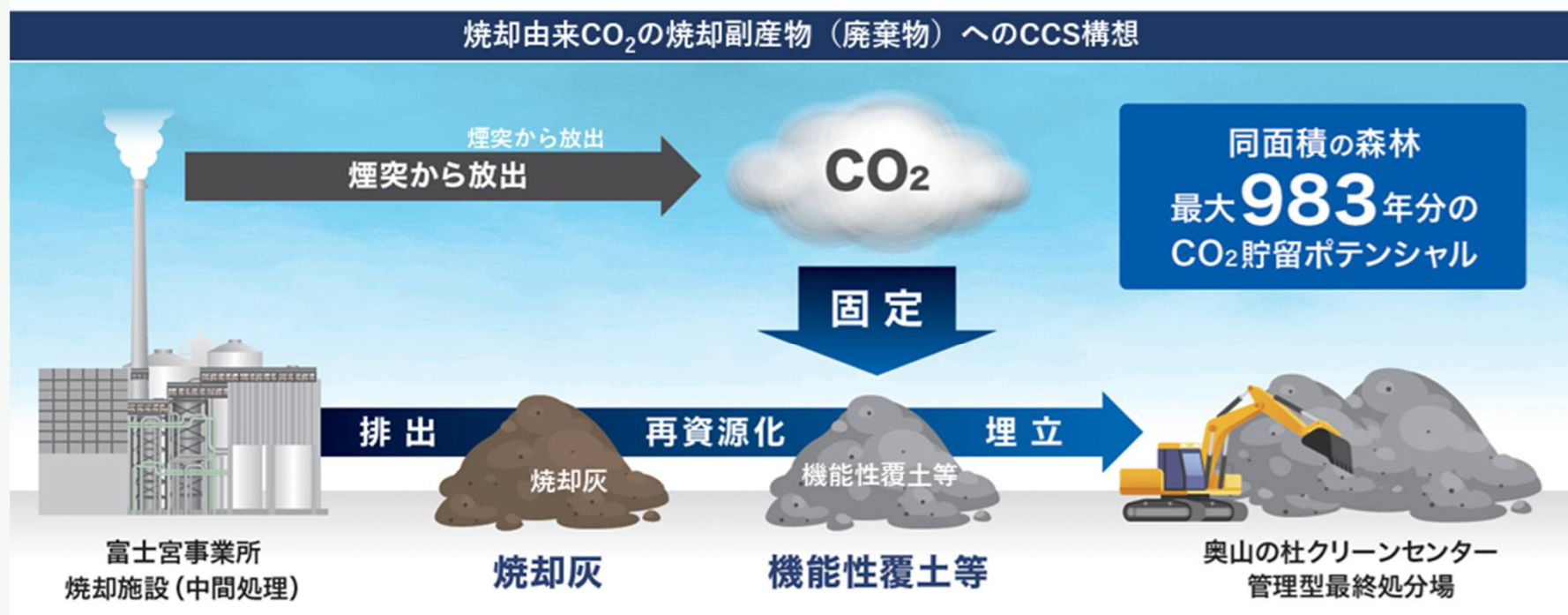
◆ 中長期成長戦略

- 太平洋ベルト近辺に焼却施設・最終処分場の設置候補地を複数選定し、同時並行的に計画推進
- 関東地域 (栃木・福島) と中国地方 (島根) の3拠点開発で、東日本+西日本への全国展開を企図
- 合計埋立容量791万 m^3 は既存の浜松市奥山の杜CC等を大きく上回り、長期成長基盤を構築
- 留意点: 最終処分場の許認可取得は時間を要し、自治体合意・住民同意プロセスにリスクが存在

トピックス：産業副産物と最終処分場を活用した焼却由来CO₂のCCS

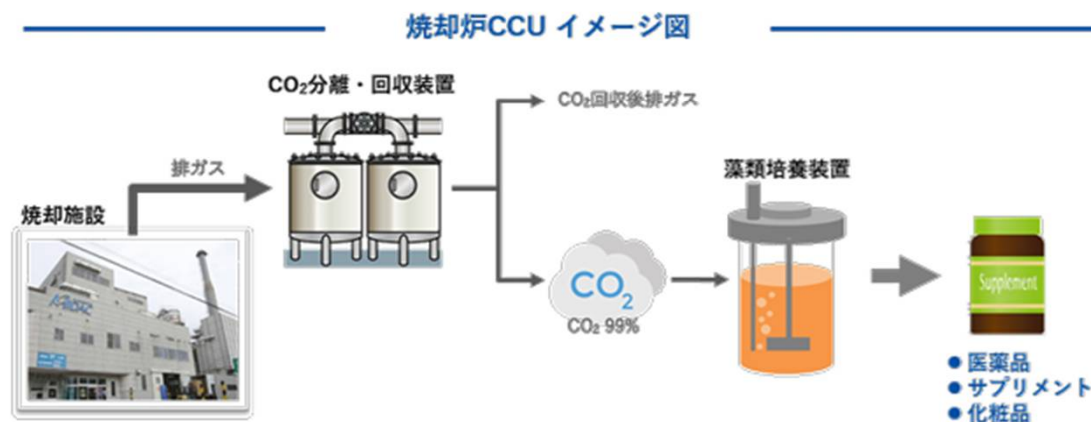
脱炭素化への取組み（処分場CCS技術開発）

- 早稲田大学地盤工学研究室（小峯秀雄教授）との共同研究を通じて、産業副産物（廃棄物）と最終処分場を活用した焼却由来CO₂のCCS（CO₂ Capture and Storage：二酸化炭素回収・貯留技術）に取り組み、2050年カーボンニュートラルに貢献してまいります。



脱炭素化への取組み（微細藻類培養 CCU）

- 本研究では、焼却由来CO₂を利用した微細藻類栽培により、高付加価値物質「フコキサンチン」を生産することで、経済性を確保しながら焼却由来のCO₂削減を目指すことを目的とします。
- フコキサンチン生成微細藻類の連続培養技術に強みを持つ(株)アルノールとの協働により、大量生産・安定供給の技術開発を加速させ、フコキサンチン事業の創出、CO₂排出量削減を図っていきます。



※藻類培養は、工場等の排ガスから分離回収されたCO₂の固定化の方法として注目される技術の1つ



ミダック富士宮事業所 新設実験室



アルノール R&Dセンター

廃棄物資源化と脱炭素化への取り組み（廃棄物再資源化で樹脂製品）

- 同社、リケンテクノスと早稲田大学地盤工学研究室と共同で、産業廃棄物の最終処分場で発生する浸出水由来の炭酸カルシウムを用いた樹脂製品を開発。
- 浸出水は排出前に環境に影響を及ぼさない状態で自然環境（一般河川）に排出されている。その処理の一環として浸出水中のカルシウムイオンと、産業廃棄物の焼却処理で排出される二酸化炭素を炭酸イオン源として活用、炭酸イオンを反応させ、炭酸カルシウムとして除去、生成した炭酸カルシウムは廃棄していた。これを樹脂用フィラーに加工、市販の炭酸カルシウムと同等に使用できるようにした。今後、PVCなど様々な樹脂への展開も視野に開発を進める。
- カルシウムイオンの除去に加え、二酸化炭素の有効活用も行うことで、地球温暖化の要因となる二酸化炭素の有効活用も行う。

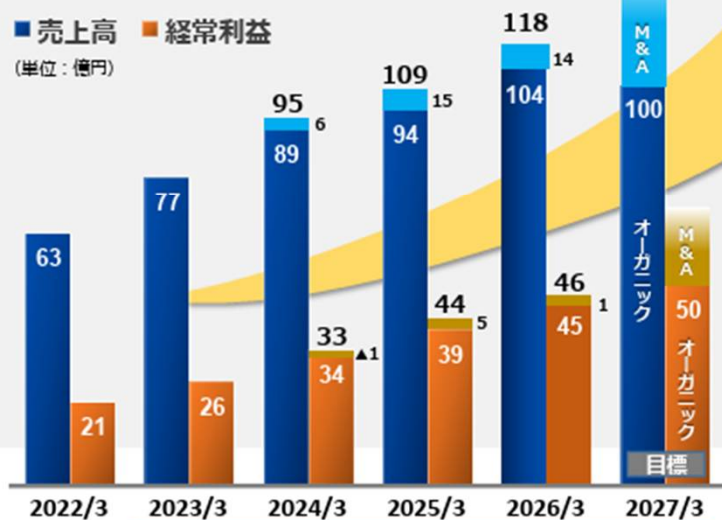


10年ビジョン Challenge 80th : FY32/3 売上400億・経常120億

現在の中計の先にある成長ストーリー

トップラインは既に100億円を超え、
次の中期経営計画を見据えた成長投資を
さらに加速させていく段階に入ってきました。

■ 売上高 ■ 経常利益
(単位：億円)



第1次中期経営計画

注) 2026/3期(予想)の数字は、オーガニックとM&Aの分解をしております。

ミダックグループ10年ビジョン
『Challenge 80th』

業界屈指の総合廃棄物処理
企業への進化を推し進め、
業界を代表する真のリーダーを
目指す。

2032年3月期
チャレンジ目標
(M&A含む)

【売上高】 **400**億円

【経常利益】 **120**億円

同業他社比較：規模は小さいが営業利益率は突出

売上規模では同業他社に劣るが、収益性で圧倒 → 規模拡大が次のテーマ

企業 (コード)		売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	営業利益率	PER (予)	PBR
ミダックHD (6564)	26/3期	11,844	4,723	39.9%	17.7倍	3.47倍
ダイセキ (9793)	26/2期	71,845	14,588	20.3%	17.4倍	2.4倍
大栄環境 (9336)	26/3期	87,855	21,285	24.2%	23.7倍	3.5倍
TREホールディングス (9247)	26/3期	119,164	22,336	18.7%	17.4倍	0.86倍
AREホールディングス (5857)	26/3期	569,992	37,088	6.1%	9.5倍	1.2倍
フルハシEPO (9221)	26/3期	10,008	1,175	11.7%	14.8倍	2.1倍
業種平均 (東証プライム サービス業)		-	-	-	20.2倍	2.80倍

(注) 同業他社数値は直近通期実績ベースの概算。PERは今期会社予想EPSをもとに算出、業種平均は業種別ランキング (2026年5月時点) 参照。

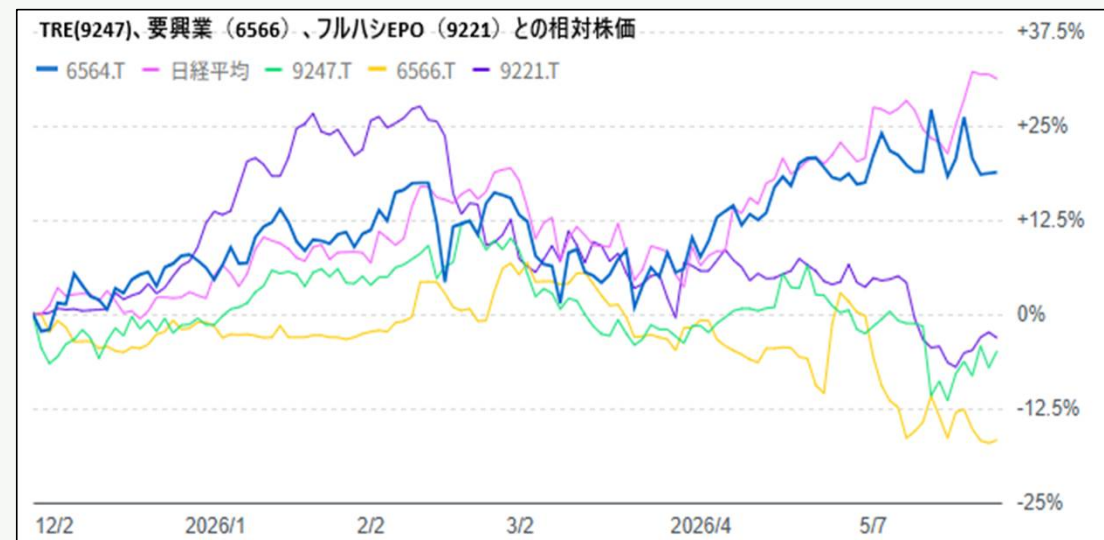
◆ 収益性: 自社処分場保有、一貫処理で競争優位

営業利益率 39.9% は同業他社の2~8倍水準。
自社最終処分場の保有 + 一貫処理体制が源泉。
ROE 18% も業界トップクラス、資本効率高い。

◆ バリュエーション: 業種平均並み

PER17.7倍 はサービス業平均20.2倍に対し若干割安
PBR 3.47倍 > 業種平均2.80倍は高めだが、ROE 18% の高さの評価あり。
ダイセキ等とは利益率水準が大きく異なり、単純比較はできないものの、最高
益更新などが評価点。

評価：最高益更新で27/3期上振れ期待もあり「ややポジティブ」



- ・ 株価は26/3期Q1が低調に推移したため低調に推移していたが、Q2以降増益に転じ、日経平均並みに上昇してきた。
- ・ 現在、27/3期会社予想EPS120.7円に対しPER18.0倍はダイセキ17.4倍、TRE17.4倍などと比較し同水準にある。27/3期は最高益更新予想も下期を慎重にみており、上振れ期待もある。今後も事業拡張が続くことも評価し、「ややポジティブ」と判断する。